

toVO トウモロコシ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2



NO. 021
20131211

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 成田 典秀さん・未来さん・永遠くん・星来ちゃん
えいと らら

撮影場所 ▶ 五所川原中央青果(五所川原市)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶ 典秀さん「仕事でした。清掃会社に勤めていますが、地震が起きた時は銀行の清掃をしていました。地震があまりにも大きくて、銀行のシャッターが全部閉まりまして、仕事にならなくなったので、会社に戻りました。その後、取引先の大型スーパーなどの地震の被害状況の調査確認作業に追われました。家に帰ったのは18時過ぎくらい。」▶ 未来さん「私も仕事でした。介護施設で仕事をしていますが、地震直後、家族のいる利用者はご自宅へ送り届け、また、1人暮らしの老人の家を1軒1軒まわり、彼らを介護施設に集めました。特に認知症の方々の精神状態が不安定になっていましたね。なかなか携帯も繋がらなかったのですが、夕方、家に帰る途中に、偶然に夫に電話が繋がリ、家に帰る旨を伝えました。」

●その日の夜のことは憶えていますか？

▶ 典秀さん「実家にロウソクと石油ストーブを取りに行きました。コンビニにも寄ってみました。食べ物も電池も何もなくて。」▶ 未来さん「たしか、夜はカップラーメンを食べたんだと思います。」▶ 典秀さん「携帯のワンセグで、だんだん被害の全体像が見えてきました。凄いいことになっているなど。ガソリンも、食べ物もないし…。余震が怖かったですね。すぐ家から出られるように着替え等を枕元に準備していました。」

▶ 未来さん「ちょっとしたキャンプ生活でしたね。電気のない不便さ。これは一体いつまで続くんだろうって、

とても不安でした。」

●次の日は？▶ 典秀さん「まだ停電が続いていましたが、通常通り仕事がありました。前日と同じように、取引先を1軒1軒回って、地震の被害状況を確認していききました。」▶ 未来さん「私も仕事がありました。地震の後片付けと、あと、1人暮らしの老人の家に昼食の弁当を届けたりしていました。」

●震災以降、変化はありましたか？

▶ 典秀さん「家族がバラバラになった時の集合場所は決めましたね。まず自宅。もし自宅にいないければ実家。もし実家にいないければ家内の実家の順番です。」

▶ 未来さん「決めたくど、忘れてた(笑) 電池と食べ物は備蓄しました。」▶ 典秀さん「ちよつとの余震でも、かなり気をつけるようになりましたね。」▶ 未来さん「地震の時は子どもが生まれていなかったのですが、子どもが生まれてからは、いろいろなこと、地震でお子さんを亡くした人とか、親を亡くした子どもとか、そういうことを自分のこととして考えられるようになりました。自分で子どもを生んでからは、いろいろなことの捉え方が変わりました。」▶ 典秀さん「子どもが生まれてからは、ホントいろいろ変わりましたねえ。」

●10年後は？▶ 典秀さん「子どもたちがちゃんと育ってくれてたらイイなと思います。」▶ 未来さん「いろいろな面で、今より良い生活ができてたらイイなと思います。子どもたちは、健康で元気で、友達とたくさん遊んでいたらイイなと思います。」終

定期購読のお申し込み 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金) / 1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011 / 12号セット)は、1,500円で販売中です。

編集後記 tovo発行のフリーペーパーtovo plus、パイロット版No.000から数えて、今号で22号目、22家族目、22ヶ月目になりました。震災に何かのカタチで関わっている人、そういう立場にいる人、手段を持っている人たち以外の、普通のご家族の声を聞きたいと思いはじめました。僕はそういう人たちの声が世の中を変える力を持っていると信じています。残り79号。79ヶ月。【小山田 和正】

東日本大地震・津波遠見チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月~2013年10月31日まで

¥1,966,136

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶成田 典秀さん・未来さん・永遠くん・星来ちゃん

撮影場所▶五所川原中央青果(五所川原市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶典秀さん「仕事中でした。清掃会社に勤めていますが、地震が起きた時は銀行の清掃をしていました。地震があまりにも大きくて、銀行のシャッターが全部閉まりまして、仕事にならなくなったので、会社に戻りました。その後、取引先の大型スーパーなどの地震の被害状況の調査確認作業に追われました。家に帰ったのは18時過ぎくらい。」

▶未来さん「私も仕事中でした。介護施設で仕事をしていますが、地震直後、家族のいる利用者のご自宅へ送り届け、また、1人暮らしの老人の家を1軒1軒まわり、彼らを介護施設に集めました。特に認知症の方々の精神状態が不安定になっていましたね。なかなか携帯も繋がらなかったのですが、夕方、家に帰る途中に、偶然に夫に電話が繋がり、家に帰る旨を伝えました。」

●その日の夜のことは憶えていますか？

▶典秀さん「実家にロウソクと石油ストーブを取りに行きました。コンビニにも寄ってみましたけど、食べ物も電池も何もなくて。」

▶未来さん「たしか、夜はカップラーメンを食べたんだと思います。」

▶典秀さん「携帯のワンセグで、だんだん被害の全体像が見えてきました。凄いことになっているなど。ガソリンも、食べ物もないし…。余震が怖かったですね。すぐ家から出られるように着替え等を枕元に準備していました。」

▶未来さん「ちょっとしたキャンプ生活でしたね。電気がない不便さ。これは一体いつまで続くんだろうって、とても不安でした。」

●次の日は？

▶典秀さん「まだ停電が続いていましたが、通常通り仕事がありました。前日と同じように、取引先を1軒1軒回って、地震の被害状況を確認していきました。」

▶未来さん「私も仕事がありました。地震の後片付けと、あと、1人暮らしの老人の家に昼食の弁当を届けたりしていました。」

●震災以降、変化はありましたか？

▶典秀さん「家族がバラバラになった時の集合場所は決めましたね。まず自宅。もし自宅にいないければ実家。もし実家にいないければ家内の実家の順番です。」

▶未来さん「決めただけど、忘れてた(笑) 電池と食べ物は備蓄しました。」

▶典秀さん「ちょっとの余震でも、かなり気をつけるようになりましたね。」

▶未来さん「地震の時は子どもが生まれていなかったのですが、子どもが生まれてからは、いろいろなこと、地震でお子さんを亡くした人とか、親を亡くした子どもとか、そういうことを自分のこととして考えられるようになりました。自分で子どもを生んでからは、いろいろなことの捉え方が変わりました。」

▶典秀さん「子どもが生まれてからは、ホントいろいろ変わりましたねえ。」

●10年後は？

▶典秀さん「子どもたちがちゃんと育ってくれてたらイイなと思います。」

▶未来さん「いろいろな面で、今より良い生活ができてたらイイなと思います。子どもたちは、健康で元気で、友達とたくさん遊んでいたらイイなと思います。」

【編集後記】 tovo発行のフリーペーパーtovo plus、パイロット版No.000から数えて、今号で22号目、22家族目、22ヶ月目になりました。震災に何かのカタチで関わっている人、そういう立場にいる人、手段を持っている人たち以外の、普通のご家族の声を聞きたいと思い始めました。僕はそういう人たちの声が世の中を変える力を持っていると信じています。残り79号。79ヶ月。【小山田 和正】

【寄付総額】 2011年6月～2013年10月31日まで、『¥1,966,136』を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。